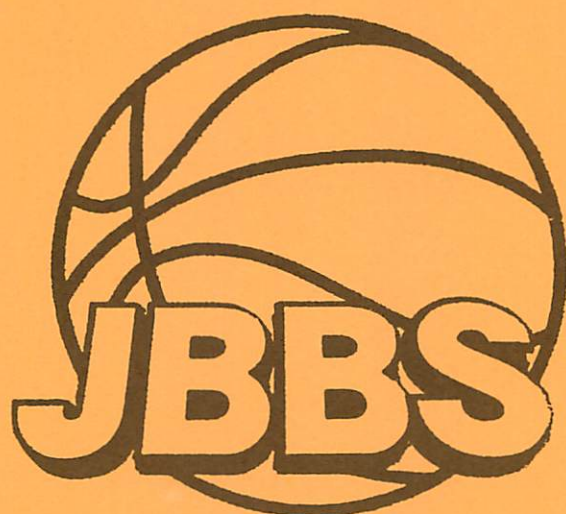


バスケットボールプラザ

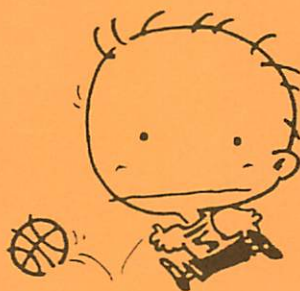
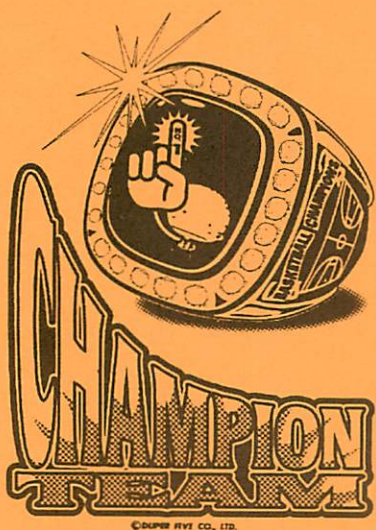
Basketball Plaza

No:43



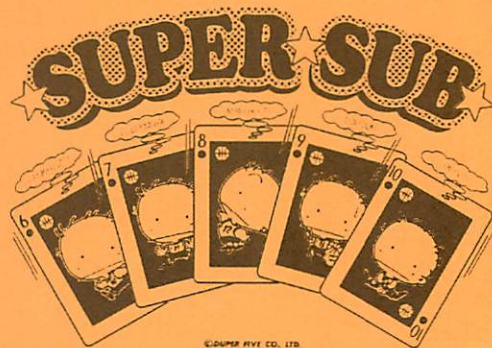
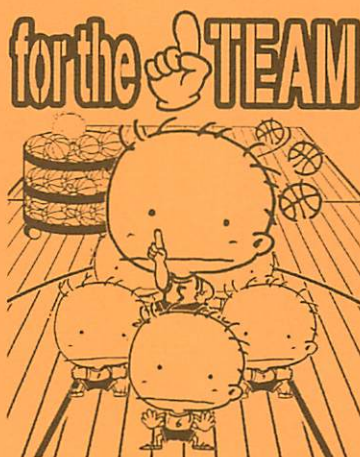
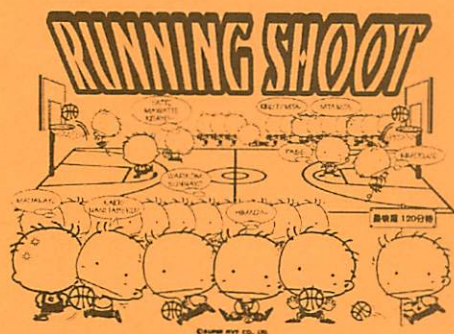
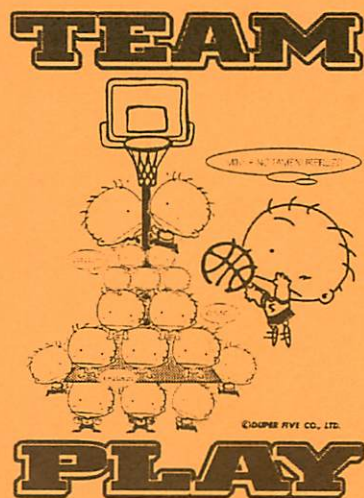
2009年11月

NPO法人 日本バスケットボール振興会



DUPER®

表現の自由人。



DUPER®

URL : <http://www.duper.co.jp>

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-35
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

E-mail: info@duper.co.jp

目 次

○ 日本女子代表世界選手権出場切符獲得	3
○ 男子日本代表アジア選手権惨敗	8
○ 秋季講演会開催	1 1
これからの日本のバスケット強化について 諸山文彦 氏	
○ 秋季交流会の模様	1 5
○ 公立でもインターハイ出場常連校	1 6
神奈川県立金沢総合高校女子バスケットボール部	
○ 今年もスペシャルオリンピックスを支援	2 1
○ スペシャルオリンピックス日本・東京	2 2
創立15周年記念バスケットボール競技大会に協力して 上谷富彦 氏	
○ 日本バスケットボール協会機関紙の沿革	2 3
○ シニアバスケットボール全国大会	2 6
○ 会員だより	
弱いからこそ強くなれる	島田 豊 2 7
○ J B L開幕に際して	3 0
○ J B L試合日程	3 1
○ W J B L試合日程	3 6
○ b j リーグ試合日程	3 9
○ 訃報・追悼文	4 5
○ 平成22年度 日本協会 競技日程	4 7
○ プラザ こぼればなし	4 9

女子日本代表世界選手権出場切符獲得

[編集部]

9月17日からインドのチェンナイで開催された、第23回FIBAアジア女子選手権大会において中川ヘッドコーチ率いる女子日本代表チームが3位となり、念願の世界選手権大会に出場することとなった。

この大会は当初6月にチャイニーズ・タイペイで開催予定だったが、同国が急に開催を返上したため、今回インド・チェンナイでの開催となったが、ご承知の通り開催地の環境は決して良いとは言えず、選手団は大変な努力の末に3位を勝ち取った。

この結果女子日本代表は、2010年9月から10月にかけてチェコで開催される第16回女子世界選手権大会に8年ぶりに出場することになり、日本バスケット界にとって久しぶりの朗報となった。

女子日本代表チーム

主なスタッフ

役 職	氏 名	所 属
チームマネージャー	佐室 有志	日本協会会長代行
ヘッドコーチ	中川 文一	日本協会
アシスタントコーチ	後藤 敏博	トヨタ自動車アンテロープス
アシスタントコーチ	加藤 雅規	アイシン・エイ・ダブリュ
総括	吉田 良子	女子日本リーグ機構

選 手

No.	氏 名	P	身長	体重	年齢	所 属
4	小磯 典子	C	183	78	35	アイシン・エイ・ダブリュ
5	矢代 直美	C	182	70	31	日本航空
6	小畑 亜章子	PG	165	56	27	デンソー
7	三谷 藍	PF	182	68	31	富士通
8	渡辺 由夏	PF	180	70	28	シャンソン化粧品
9	櫻田 佳恵	SG	170	63	25	トヨタ自動車
10	高橋 礼華	SF	177	65	21	日本航空
11	山田 久美子	C	192	116	30	JOMO
12	吉田 亜沙美	PG	165	64	21	JOMO
13	大神 雄子	PG	170	63	26	JOMO
14	高田 真希	PF	183	74	20	デンソー
15	内海 亮子	SG	175	68	23	JOMO
	平 均		177	71	26.5	

試合結果

予選ラウンド

予選ラウンドはレベルⅠに属する6チーム総当たりリーグ戦で上位4チームが決勝ラウンドへ進出する。

9月17日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ○	18	19	19	17	73
チャイニーズ・タイペイ ●	17	20	15	13	65

9月18日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ●	13	19	14	12	58
中 国 ○	14	19	23	19	75

9月19日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ○	23	20	26	25	94
タ イ ●	9	14	18	19	60

9月21日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ●	23	19	8	18	68
韓 国 ○	14	21	26	21	82

9月22日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ○	21	34	29	24	108
インド ●	20	11	13	14	58

以上の結果、日本は予選ラウンド3位となって決勝ラウンドへ進出した。

決勝ラウンド

決勝ラウンドは、中国、韓国、日本、チャイニーズ・タイペイの予選順位により、準決勝は中国対チャイニーズ・タイペイ、韓国対日本の対戦で行われた。

9月23日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ●	5	15	20	17	57
韓 国 ○	30	18	30	23	101

日本は決勝進出をかけて前回大会優勝の韓国と対戦、日本は#7 三谷が試合開始直前に発熱するアクシデントに見舞われ、4戦連続で10名による戦いとなった。試合開始から韓国に圧倒された日本は精彩を欠いた。韓国は日本のディフェンスを多彩なスクリーンやドライブで振り切り、ノーマークから確実にシュートを決めて大差で勝利した。

第1ピリオド

日本は立ち上がりから韓国の多彩なフォーメーションオフェンスを止めることができず、立て続けに相手に得点を許す。日本はオフェンスでも精度を欠き、中盤まで#9 櫻田のフリースローと#4 小磯のフックシュートの3得点しか決められない。韓国がその後も確実に加点するのに対して、日本はシュートを打てども決められず、韓国に14連続得点されてしまう。結局日本はこのピリオドを5得点に抑えられ、韓国の大量リードで終わる。

第2ピリオド

日本は#11 山田がゴール下で頑張ってバスケットカウントを得るがフリースローが入らない。韓国はその後交替した選手が確実にシュートを決め、点差はさらに広がる。終盤この試合で唯一決まった#12 吉田の3Pシュート、#4 小磯のフックシュートで連続得点するが差は縮まらず、前半を20-48で終わる。

第3ピリオド

悪い流れを変えたい日本はディフェンスの動きを高めて流れに乗ろうとし、オフェンスでも積極的にシュートを打って上昇の兆しをつかむが、韓国の正確なプレーは健在で、得点が止まることはない。日本は激しいディフェンスで頑張るが韓国にパスでふられ、ノーマークシュートを確実に決められる。終盤#11 山田や#14 高田がインサイドで頑張って対抗するが点差は縮まらず、40-78とさらに点差が開いた。

第4ピリオド

韓国オフェンスの正確さは変わらず次々と3Pを決められる。日本は#10 高橋が積極的に攻めて加点するが、韓国に連続得点を許し47-93の46点差になってしまう。終盤#5 矢代がフリースローやリバウンドシュートで連続7得点をあげて差を詰めるものの大勢は変わらず、日本は57-101と大敗を喫した。

三位決定戦

9月24日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日本 ○	18	21	12	21	72
チャイニーズ・タイペイ ●	11	8	18	20	57

世界選手権大会の出場切符をかけた3位決定戦、日本は序盤から激しいディフェンスとリバウンドをしっかりと取る理想の形でリードを広げる。後半、一時、攻めのリズムを崩すが、#4 小磯、#7 三谷らの得点で逃げ切り、一度もリードを許すことなく快勝した。

第1ピリオド

やや硬い立ち上がりとなったが、日本は#4 小磯がオフェンスリバウンドから次々と得点し

リードする。チャイニーズ・タイペイもインサイドから得点して対抗するが、日本の激しいディフェンスの前にリズムに乗れない。日本は終盤#12 吉田、#7 三谷が連続3Pシュートや速攻で得点し、18-11で終わる。

第2ピリオド

開始早々、#13 大神から#5 矢代へ絶妙なアシストが決まり盛り上がる。その後も激しいディフェンスからスティールを連発して速攻を決め、相手の得点を封じたまま10連続得点で28-11とリードする。しかし日本がディフェンスをゾーンに変えると、空いたスペースからミドルシュートを続けて決められ、今度はタイペイが8連続得点する。

しかし日本は終盤に再びスパーク、ドライブからインサイドへのパスが次々と決まって相手を突き放し、39-19で前半を終える。

第3ピリオド

日本はシュートの精度が落ち得点が止まる。対するタイペイはインサイドやミドルで得点し、一時は14点差まで差が詰まる。日本は我慢の時間帯となるが#4 小磯が踏ん張って得点差を保ち続ける。日本はそれ以上点差を詰めさせず51-31で最終ピリオドへ。

第4ピリオド

日本は序盤攻めのリズムを崩して苦しい時間帯を迎えるが、ディフェンスを頑張って凌ぐ。タイペイは何とか1桁まで点差を詰めようとするが、その後#7 三谷の連続得点でこれを阻止。終了間際に#13 大神のジャンプシュートと#7 三谷のダメ押し3Pシュートで勝利を決定的にし、72-57で第3位の座を手中にした。

大会結果

決勝戦は中国と韓国の間で争われ会場は超満員になったが、結局中国が着実に得点を重ねて、91-71の20点差で韓国を下して優勝した。



個人表彰を受ける吉田選手

大会後に行われた表彰式で個人賞の部において、大変なことがあった。リバウンド王に輝いたのは、なんと身長165cmの日本チーム#12 吉田亜沙美選手だったのである。ポイントガードでありながら、大きい選手に対抗してボールへの執着心を持ち、毎試合相当数のリバウンドを取りに行った結果のタイトルは、まさしく称賛に値し、すばしこい日本バスケットボールの特技を象徴しているようだ。

現地チェンナイにて

日本チームはWJBL開幕(9/26)の日程もあって、大会終了後足早に会場を後にして空港へ向かった。23時のフライトを前にして夕食をとるために空港近くのホテルへ行ったと

ころ、そこには今大会で大変お世話になった現地日本人会の皆さんが手配してくれた夕食会場があった。

ホテルでは大勢の日本人会の方が家族総出で選手団を出迎え、拍手とエールと選手名が記された手作りののぼりで選手たちを慰労した。

選手全員が整列の上、中川ヘッドコーチから勝利の報告があり、皆川総領事の音頭による乾杯のあと祝勝会が始まった。おいしい食事と、日本人会の方々から労をねぎらう温かい言葉をいただいて選手団は感動。さらに空港へは、日本人会の方々が自家用車で日本チーム全員を送り届けるといった徹底ぶり。日本チームは、大会中ずっと応援していただき、さまざまな形で支えてくれた皆さんに感謝して別れを惜しんだ。

日本チームは、インド・チェンマイという不慣れな土地での大会に、至る所で混乱させられた。環境的に言えばどのチームも同じ条件で戦うのだが、日本選手は体調不良を連発したり、日本人のよろさを露呈したりと日本国内との格差が大きく影響したようだ。そんな中でも、日本チームの大きな支えになったのが現地日本人会の方々の支援だった。日の丸を掲げ選手の名を叫び、絶えない日本コールで選手に応援のメッセージを直接送るといったことが毎試合続いた。その応援が限りなく選手の力となったことは間違いない。

日本でも多くの方がテレビで応援したと思うが、久しぶりの世界選手権大会出場という快挙に対して、女子日本代表チームの活躍に感謝するとともにバスケットファンともども喜ぶたいものである。

中川ヘッドコーチのコメント



今回は次々と選手の体調が悪くなり、本当に苦しんだ中で最後はよく頑張ってくれました。この選手達は必ずやってくれると信じていましたが、最後にその意地が出たのではないのでしょうか。紆余曲折がありましたが、3位決定戦で勝つことができたことで、日本のバスケットの灯りが消えなかったことは本当によかったと思います。もし負けていたら日本のバスケットの将来はないという心境でした。選手達には試合前に「日本に良いお土産を持って帰ろう」と伝え、選手達はそれにしっかりと応えてくれました。本当によくやってくれました。

矢代直美主将



とにかく嬉しいです。勝って安心しました。ある程度予想はしていましたが、こんなにも次々とコンディションを崩すとは思っていませんでした。韓国との敗戦を受けて、このままじゃいけないと選手同士でミーティングをして士気を高め、良い勝利ができて本当に嬉しいです。

現地チェンマイの日本人会の方々にも本当に良く支えていただき、元気もらいました。世界選手権への切符を取り、世界へ挑戦できる権利を得ましたので、日本のバスケットがどう戦えるのかチャレンジしたいです。

以上

男子日本代表アジア選手権惨敗

[編集部]

去る8月6日から8月16日まで中国・天津市で開催された第25回アジア男子選手権大会で、男子日本代表は参加16チーム中過去最低の10位に終わった。

日本は4チームずつ4グループに分かれた予選ラウンドでグループAに入り、韓国、フィリピン、スリランカと対戦したが、スリランカからの1勝にとどまり、予選ラウンドのグループ3位で12チームで戦うベスト8決定戦へ進んだ。ベスト8決定戦ではクウェートに勝っただけで、後は敗退し4チームで戦う9位～12位決定戦へ回った。

9位～12位決定戦では、アラブ首長国連邦に勝ったものの、カザフスタンに敗れて、結局最終成績は過去最低となる10位に終わった。

アジアのバスケットは過去と比べて勢力分布が相当変わってきていて、特に西アジア地区を始めとしてレベルが高くなっており、日本は根本的に鍛え直さない限り世界はもとよりアジアでも勝ち目はなさそうだ。

また日本代表チームはアジア選手権直前になって、それまで指揮を取っていたアメリカの“ディビッド・A・ホプス”ヘッドコーチが体調不良でコーチングを続けられなくなり、急遽倉石男子強化部長（協会理事）が指揮をとらざるを得ないというアクシデントにも見舞われ、コンディショニング的にもベストとはいえない体制であった。

男子日本代表チーム

主なスタッフ

役 職	氏 名	所 属
団 長	諸山 文彦	日本協会
ヘッドコーチ	倉石 平	日本協会
アシスタントコーチ	後藤 正規	日本協会
アシスタントコーチ	清永 貴彦	レラカムイ北海道
総 括	川島 健太	J B L

選 手

No.	氏 名	P	身長	体重	年齢	所 属
4	岡田 優介	S G	1 8 5	7 8	2 4	トヨタ自動車アルバルク
5	山田 大治	P F	2 0 0	1 0 5	2 8	レラカムイ北海道
6	桜井 良太	G	1 9 4	7 5	2 6	レラカムイ北海道
7	五十嵐 圭	G	1 8 0	6 8	2 9	トヨタ自動車アルバルク
8	柏木 真介	G	1 8 3	8 0	2 7	アイシンシーホース
9	折茂 武彦	S G	1 9 0	7 7	3 9	レラカムイ北海道
10	竹内 公輔	P F	2 0 5	9 8	2 4	アイシンシーホース
11	網野 友雄	S F	1 9 6	8 7	2 8	アイシンシーホース
12	竹田 謙	S F	1 8 8	8 0	3 0	リンク栃木ブレックス
13	正中 岳城	G	1 8 0	7 8	2 4	トヨタ自動車アルバルク
14	伊藤 俊亮	C	2 0 4	1 1 0	3 0	リンク栃木ブレックス
15	竹内 譲次	S F	2 0 5	9 8	2 4	日立サンロッカーズ
	平 均		1 9 3	8 6	2 8	

予選ラウンド成績

8月6日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ●	12	19	12	31	74
韓 国 ○	27	23	28	17	95

8月7日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ●	22	19	12	16	69
フィリピン ○	17	18	21	22	78

8月8日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ○	36	36	35	41	148
スリランカ ●	11	10	9	15	45

ベスト8決定戦

8月10日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ●	14	18	20	19	71
イラン ○	29	25	26	21	101

8月11日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ○	17	25	19	17	78
クウェート ●	0	17	20	14	51

8月12日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ●	22	21	10	26	79
チャイニーズ・タイペイ ○	29	20	24	26	99

ベスト8決定戦では予選ラウンドで対戦したチーム同士の場合、予選ラウンドの成績をそのまま適用して勝敗数を決めるため、日本は3試合のみとなった。この結果ベスト8には進出できず、9位～12位決定戦へ回るようになった。

9位～12位決定戦

8月14日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ○	24	10	21	31	86
アラブ首長国連邦 ●	14	19	16	10	59

8月15日

チーム \ P	1	2	3	4	計
日 本 ●	19	20	16	18	73
カザフスタン ○	17	14	24	22	77

8月16日に行われた決勝戦と3位決定戦などにより、男子アジア選手権大会の順位は次のようになった。

優 勝	イラン
準 優 勝	中国
第 3 位	ヨルダン
第 4 位	レバノン
第 5 位	チャイニーズ・タイペイ
第 6 位	カタール
第 7 位	韓国
第 8 位	フィリピン
第 9 位	カザフスタン
第10位	日 本
第11位	クウェート
第12位	アラブ首長国連邦
第13位	インド
第14位	ウズベキスタン
第15位	インドネシア
第16位	スリランカ

大会終了後倉石ヘッドコーチは、成績不振の責任を取る形で男子強化部長を辞任する旨の辞表を日本協会へ提出し受理された。

日本はアジアにおける男子バスケットの勢力図が、これまでと大きく変わってきている情勢をふまえて今後に対応する必要があるだろう。アジアにおいて、トップを誇っていた中国が決勝戦でイランに敗れ、西アジアや湾岸諸国の台頭が目立った大会となったが、上位に入ったチームはそれなりに強化を図ってきたという情報も入ってきている。

秋の講演会・交流会を開催

これからの日本バスケットの強化について

[編集部]

毎年恒例となった秋季講演会は、11月6日五反田「ゆうぽうと」において、日本協会理事で強化本部長を務める諸山文彦氏を講師にお招きして開催した。

講演会冒頭、愛知会長から次のような挨拶があった。



「振興会は、その名前の通り日本のバスケットボールを振興発展させるべく活動してまいりました。2年前にそれまでの親睦団体からNPO法人となり、活動内容も社会的に貢献するといった活動へと変化してきております。バスケットボールの振興ということは、言葉を変えれば日本においてマイナースポーツからメジャースポーツに変えることによって図られるものと思っています。バスケットボールをメジャーにするためには、世界において日本が勝つということが必須であり、それには

日本バスケットボールの強化が最大の課題であります。

その意味で本日の講演会は誠に意義のある会と思っておりますが、本日は時間の関係で質疑応答が出来ないかもしれませんので、日本の強化について改めて振興会としても検討し、何らかの形で提言をしていくことも必要ではないかと考えます。日本協会諸山理事におかれましては、強化本部長として大変ご苦勞をされていることに対しまして大いなる敬意を表します。」

.....

去る8月、中国において開催された男子アジア選手権大会で10位という歴史的敗退をした男子日本代表だったが、女子についてはアジアで3位を勝ち取って、世界選手権大会の切符を獲得している。今後日本代表チームを強化し国際的に対抗していくにはどうすればよいのかについてお話いただいた。



諸山文彦氏

三重県出身66歳、桑名高校から日本大学へ。大学時代から日本代表として活躍、ブラジルで開催された世界選手権や東京オリンピックに出場。日本人選手でダンクシュートを最初に成功させた選手。

日本大学卒業後日本鋼管（現JFE）へ入社、日本リーグで活躍。現役引退後は指導者として日本鋼管のコーチ、監督を歴任、平成20年から日本協会理事（強化本部長）、振興会会員でもある。

講演概要

今年8月に中国で開催された男子アジア選手権大会では、過去最低となる10位という成績になった結果について、協会強化本部長として大変申し訳なく思っております。

男子についてはアジアにおける勢力図が変わってきて、最近では西アジアや湾岸の諸国が台頭してきております。

別表は過去20年間における世界の成績とアジアにおける日本の現状を表したもので、男子についていえば日本が世界的に通用していないことがわかります。かつて王者であったアメリカに対抗して、スペイン、アルゼンチン、リトアニア、ギリシャなどが上位にきています。これら上位を占める常連国は、過去何十年間にもおよぶジュニアからの強化計画が実ったものといえましょう。この中で日本はというと1998年のアテネ世界選手権で14位に入っているだけで、それ以外では2006年に日本で開催した世界選手権に出場していますが予選で敗退しています。

一方、アジアにおけるランキングと日本がどのような位置にいるのかを分析してみると、1997年までと1999年以後では大きく変わっています。1997年までは2位から4位ぐらいにいましたが、1999年以降は5～8位となり2009年には10位という結果になりました。最近、アジアで強豪だった中国がイランに敗れましたが、東アジアの中国と韓国はトップグループに位置しています。同じ東アジアの国として日本も何とかしなければならず、強化についてのご意見も是非承りたいと思っております。トップグループをしめる西アジア諸国の進出はジュニアからの強化やコーチングスタッフの強化が実った結果ではないかと分析しています。

図1：過去20年間の世界大会順位（男子）

開催年	1990	1992	1994	1996	1998	2000	2002	2004	2006	2008
大会名	世界選手権	オリンピック	世界選手権	オリンピック	世界選手権	オリンピック	世界選手権	オリンピック	世界選手権	オリンピック
開催地	プエノシアレス (アルゼンチン)	バルセロナ (スペイン)	ハミルトン他 (カナダ)	アトランタ (アメリカ)	アテネ他 (ギリシャ)	シドニー (オーストラリア)	インディアナポリス (アメリカ)	アテネ (ギリシャ)	埼玉 (日本)	北京 (中国)
1位	ユーゴスラビア	アメリカ	アメリカ	アメリカ	ユーゴスラビア	アメリカ	ユーゴスラビア	アルゼンチン	スペイン	アメリカ
2位	ソビエト	クロアチア	ロシア	ユーゴスラビア	ロシア	フランス	アルゼンチン	イタリア	ギリシャ	スペイン
3位	アメリカ	リトアニア	クロアチア	リトアニア	アメリカ	リトアニア	ドイツ	アメリカ	アメリカ	アルゼンチン
4位	プエルトリコ	CIS 独立国家共同体*	ギリシャ	オーストラリア	ギリシャ	オーストラリア	ニュージーランド	リトアニア	アルゼンチン	リトアニア
5位	ブラジル	ブラジル	オーストラリア	ギリシャ	スペイン	イタリア	スペイン	ギリシャ	フランス	ギリシャ
6位	ギリシャ	オーストラリア	プエルトリコ	ブラジル	イタリア	ユーゴスラビア	アメリカ	プエルトリコ	トルコ	クロアチア
7位	オーストラリア	ドイツ	カナダ	クロアチア	リトアニア	カナダ	プエルトリコ	スペイン	リトアニア	オーストラリア
8位	アルゼンチン	プエルトリコ	中国	中国	アルゼンチン	ロシア	ブラジル	中国	ドイツ	中国
9位	イタリア	スペイン	アルゼンチン	アルゼンチン	オーストラリア	スペイン	トルコ	オーストラリア	イタリア	ロシア
10位	スペイン	アンゴラ	スペイン	プエルトリコ	ブラジル	中国	ロシア	ニュージーランド	アンゴラ	ドイツ
11位	ベネズエラ	ベネズエラ	ブラジル	アンゴラ	プエルトリコ	ニュージーランド	アンゴラ	セルビア・モンテネグロ	セルビア・モンテネグロ	イラン
12位	カナダ	中国	ドイツ	韓国	カナダ	アンゴラ	中国	アンゴラ	スロベニア	アンゴラ
13位	—	—	—	—	ナイジェリア	—	カナダ	—	オーストラリア	—
14位	—	—	—	—	日本	—	ベネズエラ	—	ナイジェリア	—
15位	—	—	—	—	セネガル	—	アルジェリア	—	中国	—
16位	—	—	—	—	韓国	—	レバノン	—	ニュージーランド	—

*旧ソビエト

※日本は予選リーグ敗退

図2：過去20年間のアジア選手権大会（世界大会予選）順位（男子／上位8チーム）

開催年	1989	1991	1993	1995	1997	1999	2001	2003	2005	2007
開催地	北京 (中国)	神戸 (日本)	ジャカルタ (インドネシア)	ソウル (韓国)	リヤド (サウジアラビア)	福岡 (日本)	上海 (中国)	ハルビン (中国)	ドーハ (カタール)	徳島 (日本)
1位	中国	中国	中国	中国	韓国	中国	中国	中国	中国	イラン
2位	韓国	韓国	北朝鮮	韓国	日本	韓国	レバノン	韓国	レバノン	レバノン
3位	チャイニーズ・タイペイ	日本	韓国	日本	中国	サウジアラビア	韓国	カタール	カタール	韓国
4位	日本	チャイニーズ・タイペイ	イラン	チャイニーズ・タイペイ	サウジアラビア	チャイニーズ・タイペイ	シリア	レバノン	韓国	カザフスタン
5位	イラン	北朝鮮	チャイニーズ・タイペイ	カザフスタン	アラブ首長国連邦	日本	カタール	イラン	日本	ヨルダン
6位	インド	イラン	サウジアラビア	サウジアラビア	チャイニーズ・タイペイ	クウェート	日本	イラン	チャイニーズ・タイペイ	カタール
7位	サウジアラビア	フィリピン	日本	ウズベキスタン	ヨルダン	レバノン	チャイニーズ・タイペイ	カザフスタン	ヨルダン	カタール
8位	フィリピン	ヨルダン	アラブ首長国連邦	キルギスタン	フィリピン	シリア	インド	インド	サウジアラビア	日本

女子については世界における位置づけとして、日本がほぼ7位から13位になっていて、今後の目標としては世界の強豪国にどう立ち向かうのかがポイントとなり、世界において6位以内入賞に向けて更なる強化を進めます。

アジアにおいては2位または3位を確保しており、来年開催される世界選手権にも出場いたします。これらは女子の指導者が大変な努力をされていることが実っているものと思います。

図3：この20年間の世界大会の順位（女子）

開催年	1990	1992	1994	1996	1998	2000	2002	2004	2006	2008
大会名	世界選手権	オリンピック	世界選手権	オリンピック	世界選手権	オリンピック	世界選手権	オリンピック	世界選手権	オリンピック
開催地	クアラルンプール他 (マレーシア)	バルセロナ (スペイン)	シドニー他 (オーストラリア)	アトランタ (アメリカ)	ベルリン他 (ドイツ)	シドニー (オーストラリア)	蘇州他 (中国)	アテネ (ギリシャ)	サンパウロ (ブラジル)	北京 (中国)
1位	アメリカ	CSI独立国家共同体※	ブラジル	アメリカ	アメリカ	アメリカ	アメリカ	アメリカ	オーストラリア	アメリカ
2位	ユーゴスラビア	中国	中国	ブラジル	ロシア	オーストラリア	ロシア	オーストラリア	ロシア	オーストラリア
3位	キューバ	アメリカ	アメリカ	オーストラリア	オーストラリア	ブラジル	オーストラリア	ロシア	アメリカ	ロシア
4位	チェコスロバキア	キューバ	オーストラリア	ウクライナ	ブラジル	韓国	韓国	ブラジル	ブラジル	中国
5位	ソビエト	スペイン	スロバキア	ロシア	スペイン	フランス	スペイン	チェコ	フランス	スペイン
6位	オーストラリア	チェコスロバキア	キューバ	キューバ	リトアニア	ロシア	中国	スペイン	リトアニア	ベラルーシ
7位	カナダ	ブラジル	カナダ	日本	キューバ	スロバキア	ブラジル	ギリシャ	チェコ	チェコ
8位	ブルガリア	イタリア	スペイン	イタリア	スロバキア	ポーランド	フランス	ニュージーランド	スペイン	韓国
9位	中国	—	フランス	中国	日本	キューバ	キューバ	中国	アルゼンチン	ラトビア
10位	ブラジル	—	韓国	韓国	ハンガリー	カナダ	アルゼンチン	日本	カナダ	ニュージーランド
11位	韓国	—	イタリア	カナダ	ドイツ	ニュージーランド	フランス	ナイジェリア	キューバ	ブラジル
12位	日本	—	日本	ザイール	中国	セネガル	ユーゴスラビア	韓国	中国	マリ
13位	イタリア	—	ポーランド	—	韓国	—	日本	—	韓国	—
14位	セネガル	—	チャイニーズ・タイペイ	—	セネガル	—	チャイニーズ・タイペイ	—	チャイニーズ・タイペイ	—
15位	ザイール	—	ニュージーランド	—	アルゼンチン	—	セネガル	—	セネガル	—
16位	マレーシア	—	ケニア	—	コンゴ	—	チュニジア	—	ナイジェリア	—

※旧ソビエト

図4：過去20年間のアジア選手権大会（世界大会予選）順位（女子／上位6チーム）

開催年	1990	1992	1994	1995	1997	1999	2001	2004	2005	2007
開催地	シンガポール	ソウル (韓国)	仙台 (日本)	静岡 (日本)	バンコク (タイ)	静岡 (日本)	バンコク (タイ)	仙台 (日本)	秦皇島市 (中国)	仁川 (韓国)
1位	中国	中国	中国	中国	韓国	韓国	中国	中国	中国	韓国
2位	韓国	韓国	韓国	韓国	日本	日本	日本	日本	韓国	中国
3位	日本	日本	日本	日本	中国	チャイニーズ・タイペイ	韓国	韓国	チャイニーズ・タイペイ	日本
4位	チャイニーズ・タイペイ	チャイニーズ・タイペイ	チャイニーズ・タイペイ	チャイニーズ・タイペイ	チャイニーズ・タイペイ	中国	チャイニーズ・タイペイ	チャイニーズ・タイペイ	日本	チャイニーズ・タイペイ
5位	マレーシア	ホンコン	ホンコン	キルギス	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ
6位	—	インド	—	カザフスタン	キルギス	—	—	—	—	マレーシア

次にカテゴリー的に主要国際大会に対応していく構図について申し上げます。2010年に世界選手権大会が開催され、2年後の2012年にロンドンオリンピックがあり、それぞれの大会の1年前にアジアにおける予選大会があります。その後も世界選手権とオリンピックが2年毎にあり、そのアジア予選が1年前に開催されることを考えますと、重要な国際大会が毎年のように繰り返される予定となります。

これら重要な国際大会でよい成績を残すためには、ひとつはU-16を始めとしU-18、U-19といったジュニアからの選手養成がキーポイントとなります。

カテゴリー的には、男女とも世界選手権とオリンピックが交互に2年おきに開催されることをふまえて将来をみますと、2016年のリオデジャネイロ・オリンピックでは現在16歳の選手が23歳になっている計算ですので、強化についてはU-16のジュニアから一貫して強化育成に力を注いでいかなければなりません。

日本協会では2002年に「JABBA変革21」と称した強化の中長期計画（2002年

12月発行プラザ19号で紹介)を策定しましたが、現在計画通りには進んでおりません。すなわち2004年のアテネ・オリンピック出場をはじめとして、2008年の北京オリンピックに出場し、2010年以降オリンピックと世界選手権には常時出場する計画でした。

結果的にアテネ・オリンピックに女子のみが出場しましたが、北京オリンピックには男女とも出場できませんでした。

この計画は「日本代表チームの強化」を柱にして、「底辺の拡充と選手の育成・強化」と「指導者の育成」が大事であるという、いわば三位一体で20年構想の実現へ向けて策定されました。その骨格については素晴らしいものであり現在でも生きています。しかしながら計画通りに進んでいない現状から、現在強化部において20年構想の実現に向けた検証を行うとともに、計画の第2ステージを作成していかなければならないと思っています。



次に昨年から今年にかけて開催された国際大会の結果について触れてみますと、U-18のアジア選手権で男子は4位でしたが中国や韓国には勝っています。女子は優勝して今年開催されたU-19の女子世界選手権に出場し、国内大会との兼ね合いでフルメンバーによる戦いができなかったが12位になっています。この大会の女子の身長についていえば、日本の平均175cmに対しまして中国は185cm、韓国は183cmと日本より高かったわけですが、日本は身長差に打ち勝ちました。これらのことは将来における明るい話題でエンデバー計画が実を結んだものと思いますし、これからのオリンピックへ向けてジュニアからの強化が益々重要になりました。

今回日本代表チームのアジア選手権において、女子が3位になったものの、男子についてはこれまでの最低の成績になってしまいました。男子についてはアメリカから招請したヘッドコーチが5月に体調を悪くし、6月にドクターストップがかかってコーチを続けられなくなり、7月に急遽倉石強化部長がヘッドコーチに着任しましたが、引き継ぎも十分でなく期待外れの成績になってしまいました。外国からヘッドコーチを招請するについては、そのサポート体制について検討段階でいろいろな意見がありましたが、アシスタントコーチや総括担当といった周りのスタッフとの緊密な連携が必要だということを強く感じました。

女子はアジア選手権で3位となり世界選手権への出場権を獲得しましたが、開催地インドにおける過酷な環境に対応できない選手が続出し、下痢やおう吐に悩まされました。しかし他の国の選手も条件は同じであり、海外のあまり良くない環境において、日本選手がもっとたくましく活躍できるように育て上げなければなりません。

総体的に男子は厳しい状況下ですが、ロンドンオリンピックの出場権獲得へ向け、挑戦を図ることは勿論のこと、2014年の世界選手権の出場権獲得(アジアから3チーム)も重要なターゲットと考えております。

女子については、まず来年の世界選手権で上位に入ること、次にロンドンオリンピック、次

の世界選手権への出場権獲得等が目標になります。

そのためには、選手個々の個の技術強化が必須条件で、心技体のバランスがとれた選手強化、それから情報収集分析、トレーナー、医科学、審判、国際部等との連携強化、バックアップ体制の整備が必要だと思います。

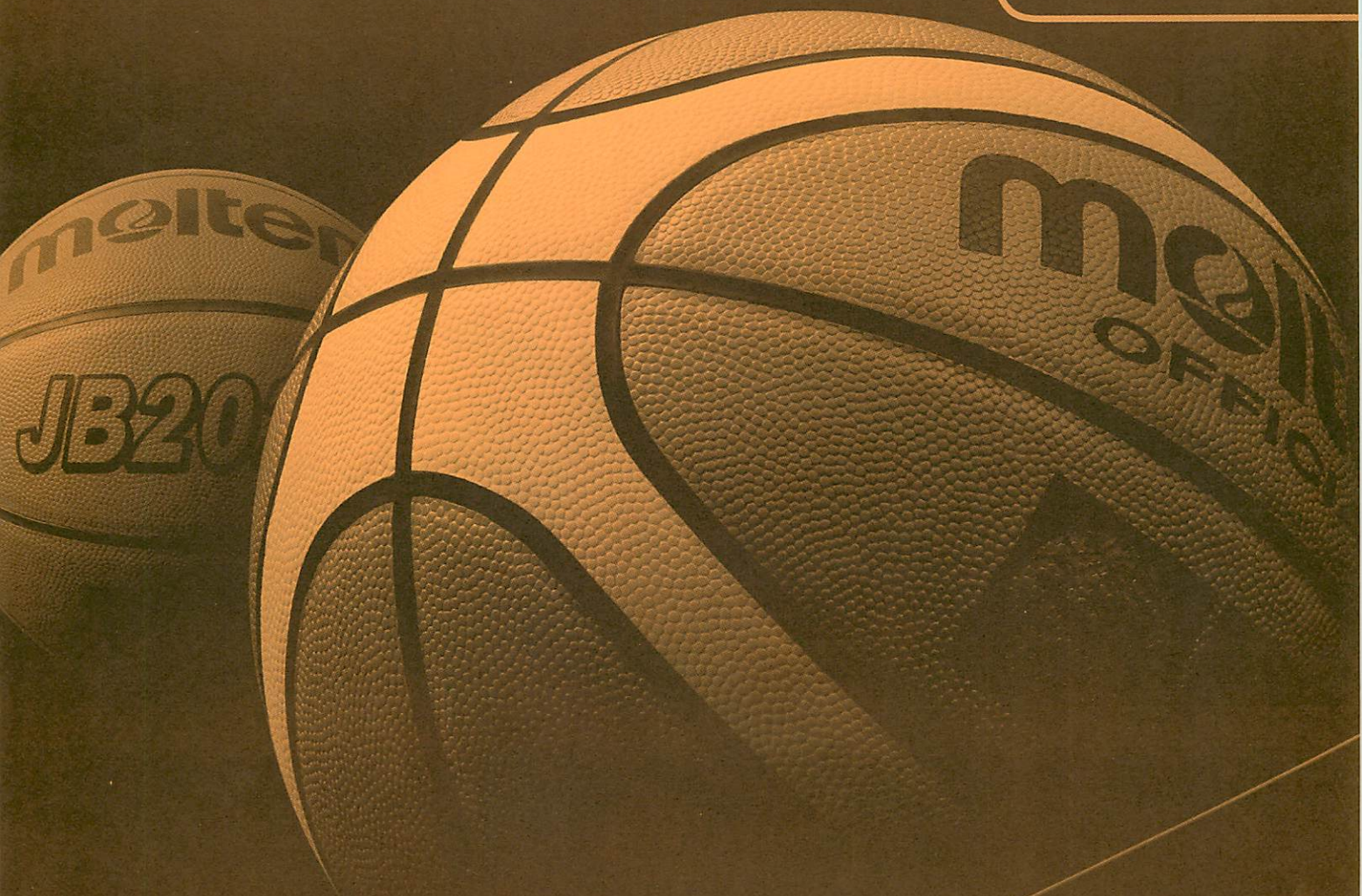
以上これからの強化については多くの課題がありますが、総力を挙げて取り組む所存ですので、皆様のご支援ご協力を是非お願いいたします。

秋季交流会の様様

講演会に続いて開催された交流会は、かつてオリンピックや世界選手権に出場した選手の皆さんをはじめ、遠くは秋田から加藤廣志氏も参加、和やかな雰囲気バスケット談義に花を咲かせた。



molten®
For the real game



For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 検定球
貼り・天然皮革、7号球



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川15丁目5-7

どんな道も、
自分の道に変えられる。



SOUND mind
SOUND body

 **asics.**